

# 平成31年度 伊勢地域公共交通会議 第1回 議事要旨

## ■開催概要

日時：平成31年4月2日（火） 13時30分～15時30分  
場所：伊勢市役所 本館3階 委員会室  
出席者：全18名

学識経験者  
2名（名古屋大学大学院環境学研究科教授  
・近畿大学工業高等専門学校総合システム工学科准教授）

市民代表 4名  
一般乗合旅客自動車運送事業者  
1名（三重交通株式会社バス営業部部长（乗合））  
一般旅客自動車運送事業者  
1名（三重県タクシー協会伊勢支部長）  
一般旅客自動車運送事業者の事業用自動車運転者が組織する団体  
1名（三交伊勢志摩通労働組合 執行委員長）

鉄道事業者  
2名（東海旅客鉄道株式会社 東海鉄道事業本部  
・近畿日本鉄道株式会社 宇治山田駅長）

中部運輸局三重運輸支局  
1名（首席運輸企画専門官）

三重県伊勢警察署  
1名（交通官）

三重県 1名（地域連携部交通政策課長）  
伊勢市 4名（市長・産業観光部理事・健康福祉部部长・都市整備部部长）  
事務局 4名（伊勢市都市整備部交通政策課）

## ■議事内容

地域公共交通会議の運営方法等について、中部運輸局三重運輸支局より資料を用いて説明。

### ■ 地域公共交通再編に伴う中間とりまとめ（案）について

事務局より、地域公共交通再編に伴う中間とりまとめ（案）について、資料を用いて説明。

地区別意見交換会で、進修地区において実施したアンケートでは配布したうち約40%の方から回答をいただき、バスを利用していない方が多いことや、何が不便なのかを把握することもできた。

本日の資料の説明では、再編にあたって地区でも独自に色々できるようにするとのこと、非常にありがたく思う。同じ地区内でもバス停まで遠かったり、高低差があったりと状況が異なるので、平坦なところと同じように考えてはいけなさと感じた。

市内循環バスについて、中之町は山のでっぺんのあたりに位置するので、イオンやララパークなどの商業施設への横移動もできるようになったのが大きいと思う。（市民代表）

市内循環バスについて、これまでの3ヶ月の結果を見ると、比較的順調に利用が伸びていると感じている。朝の1・2便の利用が伸び悩んでいるが、新年度になり人の動きも変わることが考えられる。また、当初の検討の中で図書館への運行も追加したが、その効果も出てきていると感じている。（一般乗合旅客自動車運送事業者）

市内循環バスの運行を楽しみにしていたが、従来のおかげバスよりも利用してくれていると感じている。ララパークから市立伊勢総合病院に行く際の所要時間が非常に短くなり、付近の住民の方からは、非常に行きやすくなったという話も聞いており、ありがたく思っている。

伊勢市広報の4月1日号に、市内循環バスについて非常に丁寧に掲載されており、ポスターなどよりも非常に効果があるのではないかと、会合などでも話題になっている。（市民代表）

⇒伊勢市広報においては、皇學館大学の学生とコラボレーションし、若い方にも見てもらえるような内容にした。後ほど配布したいと思う。（事務局）

市内循環バスの利用者アンケートにおいて、満足度の「不満」が9.0%となっている。「ふつう」と回答した方が多くなっているが、この中には不満に感じている方も含まれているのではないかと考えられることから、この値は高いのではないかと感じている。

バス停勢圏図として300m圏の図もあるが、地形などを考えると実際よりも少し狭いということも考えられるため、その意識を持つておくことも大切である。

運転免許証の返納者も整理されていたが、この方たちが返納後にどのように移動していくのか、どのようなPRをしていくのかが気になる。（学識経験者）

⇒市内循環バスの利用者アンケートにおいて「ふつう」と回答した方の自由意見を見ると、便数が少ないといった意見もあるので、今後開催する地区別意見交換会でも意見を聞きたいと思う。バス停勢圏については、駅も300mで設定しており、他都市の事例よりも狭い範囲を従来から設定して考えているが、今後も検討したい。運転免許証の返納に関しては、警察とも連携し、何ができるのか考えていきたい。（事務局）

⇒運転免許証の返納について、返納する際に希望者には1,100円と有料ではあるが運転経歴証明書を発行している。三重交通は運転経歴証明書を持っている人及びその同伴者1名を対象に運賃半額となる運転免許返納割引を実施しており、警察としてもその制度の案内をさせていただいている。（三重県伊勢警察署）

市内循環バスについて、乗り継ぎをどのようにするのか、宮川駅から鉄道を使って伊勢市駅に行った。その際、乗り継ぎ券の場所がわからず、改札口でJRの駅員に聞いたら親切丁寧に教えていただき、非常にありがたいと思った。

中之町バス停でバス待ちの方と話す機会があったが、市内循環バスは非常に便利なので、継続して運行してもらえるように盛んに利用しているという話であった。

この市内循環バスについては、小俣の方々がどのような運行なのかまだ理解できていないと感じている。東大淀・日赤ルートは伊勢赤十字病院まで行けるので便利だという話は聞くが、市内循環バスは障がい者手帳を持っている方や高齢者は乗り継ぎで無料で利用できる。まだまだ一般の方々にはわかりにくい部分があると感じている。（市民代表）

⇒乗り継ぎも含め、どのように市内循環バスを使っていくというのを、色々なアイデアを聞きながら事務局でも考えていかないといけないと感じている。ポスターなども含め、市内循環バスで統一的なデザインを用い、一目で市内循環バスというのがわかるようにするなどして利用を誘導していくことも考えたい。（市長）

本日午前中にイオン伊勢店から市内循環バスを利用してきたが、イオン伊勢店の時点に多くの方が乗車しており、おそらく中之町から乗車してきた方々ではないかと思う。伊勢病院でもさらに乗車してきて、その後、ララパークで降車する方が多かった。

乗降バス停の調査結果を見ると、右回りと左回りとで利用状況が対称となっておらず、行きと帰りとで異なるルートになっていると考えられることから少し需要がつかみにくい。

乗り継ぎについては、利用者の42.4%が乗り継ぎをし、そのうち約4割が三重交通の路線バスとの乗り継ぎとなっており、これは非常に多い数値であると思う。市内循環バスのような環状線では、沿道の方の利用が中心になりがちだが、伊勢市ではそうではないことが見て取れる。具体的にどこで乗り継ぎをしているのかが把握できると良い。

不便地域の説明もあったが、これは非常に難しく、同じ300mでも駅であれば改札口からなのか、伊勢市駅であれば北口と南口とがありどちらからなのかもあるし、バス停によっても道路を横断できる場所や地形によっても変わってくる。乗り継ぎも含め、特にどこのバス停を重点的に整備するのかを考える必要がある。

軸についても、それぞれの軸で、例えば商業施設や病院にいくついけるのか、1回の乗り継ぎでどこまでいけるのかなど、どの程度のサービスレベルを確保するのも考えないといけない。今までできなかったことが、再編によりできるようになったということを考えていければと思う。  
(学識経験者)

⇒乗り継ぎについては、乗り継ぎ割引券にナンバリングをしているので、概ねどの方面から来ているのかは把握できると思う。バス停勢圏については、どこまで精度を上げるのか考えていきたい。路線バスとの乗り継ぎバス停については、再編の中で運行事業者とも検討していきたい。サービスレベルについては、地方の10万人都市としては非常に多くの路線バスを運行していただけていると思っている。地域によって差が出てきたりする可能性も大いに考えられるため、できれば平等にやっていきたいと考えている。(事務局)

地域公共交通再編に伴う中間とりまとめ(案)について、原案どおり承認をいただいた。

## ■ 市内循環バス社会実験運行期間の延長について

事務局より、市内循環バス社会実験運行期間の延長について、資料を用いて説明。

どのような理由により、運行期間を8月末までの3ヶ月延長するのか。(鉄道事業者)

⇒1月は正月、初詣があり、3月や4月は年度の変わり目となっている。また、6月には元号も変わるということで、5月までの5ヶ月間では、評価期間としては短いというのが理由である。(事務局)

運行期間を延長すると夏の季節にもかかるということで、昨年のような猛暑になった場合、中之町などの利用が多く屋根のないバス停での対応を考えてほしい。近くの施設や店舗の中や軒下で待つことができるようにするなど考えられる。(市民代表)

運行期間を刻んで延長するのではなく、思い切って1年間延長するなどできないのか。(市民代表)

- ⇒そのような意見があることも把握しているが、実証実験であることもあり、評価をしつつ運行期間をどのようにするのか考えていきたい。（事務局）
- ⇒そのようなことであれば6月にも少し改善してはどうか。停留所間が長い区間もあり、もう少しバス停を増やしてもとも思う。路線バスなどの乗り継ぎが合わないバス停があればダイヤを変えることも考えていかないといけない。実証実験は1年間ぐらいやるのが評価の面でもいいが、4月になった時に、新入生が通学で利用することができるのかできないのか、少なくとも1学期の間は利用できるよとか、丁寧に告知をしていかないといけない。（学識経験者）
- ⇒高校を回ってPRをしてきているが、通学利用への期待を持っていただいた高校があったものの、帰りの時間の運行がないなどの問題があった。ダイヤについては、特に中之町のバス停付近ではバス相互のすれ違いができない狭隘区間があるため、路線バスの運行の合間を縫うようにダイヤ編成をしており、変更が難しい面もある。取り急ぎは3ヶ月間の延長であるため、現在の運行内容を維持したい。（事務局）

市内循環バス社会実験運行期間の延長について、原案どおり承認をいただいた。

## ■ 平成31年度（2019年度）事業計画（案）について

---

### ■ 平成31年度（2019年度）事業収支予算（案）について

---

事務局より、平成31年度（2019年度）事業計画（案）および事業収支予算（案）について、資料を用いて説明。

特に意見なし

平成31年度（2019年度）事業計画（案）および事業収支予算（案）について、原案どおり承認をいただいた。

### ■ 伊勢市内バス路線（外宮内宮線）への連節バス導入の進捗状況について

---

一般乗合旅客自動車運送事業者（三重交通）より、伊勢市内バス路線（外宮内宮線）への連節バス導入の進捗状況について、資料を用いて報告。

連節バスの運行時間帯や導入台数はどのように考えているのか。また、他の都市の事例では通学や通勤に対応するために運行しているが、現状では対応できているのか。特に通学においては、皇學館大学などの学生利用が、朝夕に集中するようであれば、導入の効果があるのではないかと。（学識経験者）

⇒連節バスは2台導入を予定している。運行時間帯は臨時バスを多く運行している10時から17時の間で考えている。通学や通勤に対しては、朝の時間帯における渋滞により速達性が確保できない懸念があるが、運行について検討していきたいと思う。（一般乗合旅客自動車運送事業者）

⇒宇治山田駅や外宮では、内宮方面のバスに満員で乗れないという話も聞くので、この連節バスの運行により改善されるのではないかと期待している。また、連節バスを急行で運行させると、急行が止まらない途中のバス停の利用者が乗りやすくなるのではないかとと思う。内宮周辺では、店舗の営業時間などにより16時頃には観光客も減ってくるので、運行時間帯については検討が必要ではないかと思う。（市民代表）

連節バスは降車にすごい時間がかかる。他の都市では、ＩＣカードなどを活用し中扉からも降りられるような対応を取っているところもあるが、対応策は考えているのか。（学識経験者）

⇒常設ではないが、多客時には携帯式のＩＣカードリーダーを活用することを考えている。現在も外宮や内宮では同様の対応を取っている。（一般乗合旅客自動車運送事業者）

## ■ その他

---

鉄道事業者（東海旅客鉄道株式会社）より、新幹線・在来線の運行情報の充実について報告。

市民代表より、進修地区における市内循環バス乗り継ぎ時刻表やイベント時のバス利用案内（ダイヤ）を掲載したチラシの作成例について報告。

以上